

第2学年1組 音楽科学習指導案

指導者 鈴木 裕里乃

1 題材名 ようすをおもいうかべよう

教材名 鑑賞 「かっこう」(スイス/イタリア民謡)

「森の奥深く住むかっこう ～『動物の謝肉祭』より～」(サン＝サーンス作曲)

表現 「にゃーご ～音楽物語『にゃーご』より～」(きしもりしずか作詞 平島勉作曲)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (1) イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。

B 鑑賞 (1) イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

[共通事項] (1) ア (ア) 音色 リズム 速度 旋律
(イ) 反復

(1) 題材観

本題材は、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴き、想像したことや感じ取ったことを伝え合ったり、自分の表現に生かしたりしていくことをねらいとしている。

低学年の児童は音楽を聴いたり歌ったりすると、感じたことを素直に言葉に表し、聴くこと歌うことそのものを楽しんでいる。そこで、本題材では様子を思い浮かべながら音楽を聴き、「なぜそう感じたのか」を追求していくことで、音楽を形づくっている要素に気付かせ、それらの要素がかかわり合うことで音楽表現がより豊かなものになっていくことを感じ取らせたい。また、感じ取ったことについて友達と意見を交流し、新たな聴き方に出会わせることで、鑑賞の力を高めていきたい。このような鑑賞の学習を生かし、歌詞の内容に合わせて自分の思いや意図をもって歌う学習にもつなげたいと考える。

(2) 児童の実態 (男子16名 女子15名 計31名)

本学級の児童は、音楽の学習に興味・関心が高く、今月の歌や学級で年間の音楽活動として行っている音楽物語『にゃーご』にも楽しく取り組んでいる。しかし、演奏活動そのものを楽しむことにとどまりがちで、「このように表現したい」という思いをもったり、それを表現するためにどのような工夫をしたらよいかを考えたりするまでには育っていない。また、鑑賞の活動にも意欲的に取り組み、音楽に合わせて自然に体を揺らしたり、口ずさんだりし、音楽全体の雰囲気を感じ取っている。しかし、なぜそうした雰囲気が生まれるのか、どこがよいのかという掘り下げた聴き方には至っていない。このような児童の実態を踏まえ、「音楽を形づくっている要素」の働きが生み出す面白さに気付くことが、深く聴く力と豊かに表現する力の双方を育む第一歩になると考えている。

(3) 指導観

第一次は、音楽の聴き方を知り、一人一人の感性を磨いていくようにしたい。まず、曲想が対照的な「森の奥深く住むかっこう」と「かっこう」を聴き、それぞれの楽曲の表す様子を思い浮かべる。次に、2曲とも同じ「かっこう」を素材としている楽曲であるが、なぜ思い浮かべる様子が異なるのかを比較して考えさせていくようにする。児童は「1曲は速度が遅く、もう1曲は速い」というように、「音楽を形づくっている要素」に気付かせ、それぞれの音楽をもう一度聴き深めるようにする。そして、「音楽を

形づくっている要素」が楽曲のよさや面白さを生み出していることを感じ取るようにさせ、それとともに、自由に様子を思い浮かべて聴くことを楽しませたい。

第二次は、友達と音楽の楽しさを広げていくとともに、自分の聴き方を確立していくようにしたい。児童は「森の奥深く住むかっこう」と「かっこう」の2曲のどちらがお気に入りかを考え、それがなぜなのか、音楽を聴いて確かめながら、友達と伝え合う。友達と伝え合うことで、共感したり、自分にはなかった感じ取り方や聴き方に気付いたりさせたい。

第三次は、鑑賞で学んだことを表現に生かすようにしたい。本学級では年間を通して音楽物語『にゃーご』に取り組んでいる。本題材ではこの中の「にゃーご」という楽曲を教材として取り上げる。この楽曲は、こねずみの無邪気さと猫の恐ろしさを対比させて歌う曲である。一人一人がこねずみや猫の気持ちを感じ取り「このように表現したい」という思いをもつようにし、鑑賞で学習した「音楽を形づくっている要素」のかかわり合いを生かして、より豊かな歌唱表現ができるようにしていきたい。

3 題材の目標

- ・様子を想像しながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴く。
- ・自分の「お気に入りのかっこう」について、想像したことや感じ取ったことを友達と伝え合い、楽曲のよさや面白さを味わう。
- ・歌詞から登場人物の気持ちを想像し、楽曲の気分を感じ取って思いをもって歌う。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①「森の奥深く住むかっこう」と「かっこう」のそれぞれの音楽の特徴に興味・関心をもち、様子を思い浮かべて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②場面の様子を想像したり、こねずみや猫になったつもりで歌ったりすることに進んで取り組もうとしている。	①様子や気持ちを表す表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。	①歌詞の表す様子や気持ちを生かして、楽曲の気分にあふさわしい歌い方で歌っている。	①音色、リズム、速度、旋律、反復など、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらのかかわり合いを感じ取って聴いたり、そのよさや面白さに気付いたりしている。 ②楽曲の気分や、音色、リズム、速度、旋律、反復などのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲のよさや面白さに気付いて聴いている。

5 研究の視点について

【視点1】表現と鑑賞を関連させた題材構成

○鑑賞での学びを表現に生かす

鑑賞と表現のどちらの学習においても、曲想が対照的な2曲を教材として取り上げ、共通に支えとなる「音楽を形づくっている要素」を手掛かりに、学習を進めるようにする。

【視点2】思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする力の育成

○楽曲全体をとらえた構造図の活用

音楽の流れ全体を構造図に表し、児童が聴き取ったこと、気付いたこと、思い浮かべたこと、感じ取ったことなどを記入する。これらを活用して思考過程を可視化し、楽曲のよさや面白さが「音楽を形づくっている要素」とそれらのかかわり合いにより生み出されていることに気付かせていきたい。

○「お気に入りのかっこう」を伝え合う場の設定

2曲を聴いて、想像したことや感じ取ったことについて友達と伝え合うことから、児童は主体的に音楽を聴き、そのよさを十分に味わおうとするであろう。また、友達の意見から新たな音楽のよさや面白さに出会い、一人一人の感じ方を認め合うようにしたい。

6 題材の指導計画 (6時間計画)

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第一次	ねらい 二つの音楽を聴き比べて、思い浮かべた様子や感じ取ったことを言葉で表すとともに、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取る。		
	第1時	○既習曲「かっこう」(トイワ民謡)を歌う。 ・歌詞の様子を思い浮かべ、歌い方やリズムに気を付けて歌う。 ○「森の奥深く住むかっこう」と「かっこう」(スイ/イタリア民謡)を聴き比べ、それぞれの様子を思い浮かべる。 ・2曲の違いを感じ取り、音楽から思い浮かべた様子や感じ取ったことを発表したり書いたりする。	「森の奥深く住むかっこう」と「かっこう」のそれぞれの音楽の特徴に興味・関心をもち、様子を思い浮かべて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①)
	第2時	○思い浮かべた様子の理由を考えることにより、音楽を形づくっている要素(音色 リズム 速度 旋律 反復)のかかわり合いに気付く。 ・「森の奥深く住むかっこう」を聴き、聴き取ったことやそこから思い浮かべた様子を言葉などで表す。	音色、リズム、速度、旋律、反復など、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらのかかわり合いを感じ取って聴いたり、そのよさや面白さに気付いたりしている。 (鑑賞の能力①)
第3時	○「かっこう」(スイ/イタリア民謡)を聴き、音楽を形づくっている要素の働きによって、楽曲の雰囲気が変わること気付く。 ・前時の学習で気付いた音楽を形づくっている要素を手掛かりに「かっこう」(スイ/イタリア民謡)を聴く。 ・音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、想像したことや感じ取ったことを言葉などで表す。	音色、リズム、速度、旋律、反復など、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらのかかわり合いを感じ取って聴いたり、そのよさや面白さに気付いたりしている。 (鑑賞の能力①)	
第二次	ねらい 友達と伝え合うことにより、それぞれの楽曲のよさや面白さを感じ取って、楽曲全体を味わって聴く。		
	第4時(本時)	○自分の「お気に入りのかっこう」について伝え合う。 ・「森の奥深くに住むかっこう」と「かっこう」(スイ/イタリア民謡)の楽曲全体を味わって聴く。 ・その曲の、どんなところが好きなのかを言葉などで表す。 ・2曲を比較しながらそれぞれの楽曲のよさや面白さを友達と共有する。	楽曲の気分や、音色、リズム、速度、旋律、反復などのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲のよさや面白さに気付いて聴いている。 (鑑賞の能力②)
第三次	ねらい 鑑賞で学習したことを、表現に生かす。		
	第5時	○場面の様子や気持ちを想像しながら「にゃーご」を歌う。 ・歌詞の様子を思い浮かべて体を動かしながら歌うなどして、こねずみや猫の気持ちを感じ取る。	場面の様子を想像したり、こねずみや猫になったつもりで歌ったりすることに進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度②)
第6時	○自分の思いをもって「にゃーご」を歌う。 ・こねずみの無邪気さとたま(猫)の恐ろしさが伝わるように、表現を工夫して歌う。	様子や気持ちを表す表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもっている。 (音楽表現の創意工夫①) 歌詞の表す様子や気持ちを生かして、楽曲の気分にあわせて歌い方で歌っている。 (音楽表現の技能①)	

7 本時の学習(4/6)

(1) 目標

自分の「お気に入りのかっこう」を友達と伝え合い、楽曲のよさや面白さを味わう。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
1 「ニャーゴでごあいさつ」を歌う。 2 本時のめあてをつかむ。	○音楽の学習を始める雰囲気づくりをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分の「お気に入りのかっこう」を、友だちにしょうかいしよう。 </div>	
3 「森の奥深くに住むかっこう」と「かっこう」の2曲を、全体を通して聴き、前時までの学習を振り返る。	○前時までの学習で活用した、楽曲全体の構造図を掲示しておき、それぞれの楽曲の特徴を確認する。
4 自分の「お気に入りのかっこう」について考え、そのよさを確かめる。 ・「この楽曲のよさや面白さはどんなところなのか」を友達に伝えられるように、ワークシートに書く。	○前時までのワークシートも活用してよいことを助言する。 ○お気に入りの理由を、音楽で確かめられるようにする。 ○楽曲のよさや面白さを、「音楽を形づくっている要素」のかかわり合いに結び付けて書けるようにする。 ○一人一人を見てまわり、よさを認め、児童が自信をもって発表できるようにする。 ○つまずきの予想される児童には、「音楽を形づくっている要素」のフラッシュカードを示しながら適宜アドバイスをする。
5 自分の「お気に入りのかっこう」を紹介する。 ・友達の発表を聞き、「自分と同じ感じ方」「自分と違う感じ方」に気付く。 ・個々の紹介カードを構造図の周りに貼る。	○児童の感じ取り方を認め、意欲的に発言できるようにする。 ○児童が感じ取ったことを音楽で確かめられるようにする。
◆楽曲の気分や、音色、リズム、速度、旋律、反復などのかかわり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲のよさや面白さに気付いて聴いている。 (鑑賞の能力②) (態度観察・ワークシート・発言)	
6 本時の学習を振り返りながら「森の奥深くに住むかっこう」と「かっこう」の2曲を、全体を通して聴く。	○構造図を見ながら、自分の感じ取ったことをもう一度確認して聴くように助言する。